

環境経営レポート

2025年度

我が社のスコープ指数

(対象期間:2025年1月~2025年12月)



発行日:2026年3月31日

服巻建設 株式会社

目次

1. 組織の概要	p.1
2. 認証・登録の対象範囲	p.1
3. 環境経営方針	p.2
4. 実施体制	p.3
5. 環境経営目標（1）2025年	p.4
6. 環境経営計画	p.5
7. 環境経営目標の実績	p.6・7
8. 環境経営計画の取組結果と その評価、並びに次年度の計画内容	p.8
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果並びに違反、訴訟等の有無	p.9
10. 「Scope(スコープ)1・2」算定「脱炭素経営」 スコープの算定結果	p.10
11. 代表者による全体評価と見直し及び	p.11
※ 活動の取組		
① 弊社の太陽光発電について	p.12
② 弊社のSDGsについての取組（変更なし）	

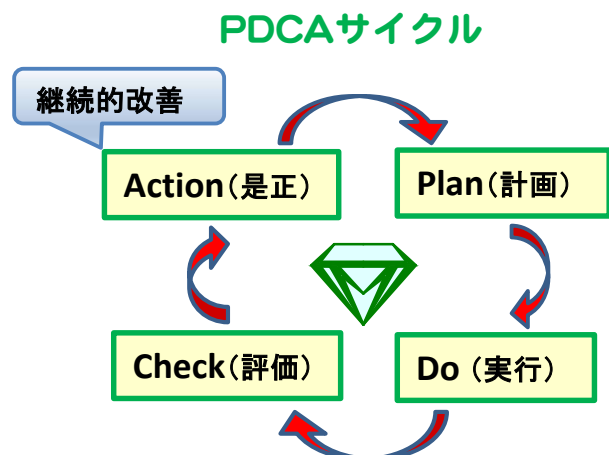
1. 組織の概要

- 1) 事業所名 服巻建設 株式会社
代表者氏名 代表取締役 松尾 裕之
- 2) 所在地 本 社 〒845-0002 佐賀県小城市小城町畑田 988番地1
- 3) 環境管理責任者
担当者 総務部 笠原 明子
連絡先 TEL0952-71-1005 FAX 0952-72-1799
Eメールアドレス haramaki@mx81.tiki.ne.jp
- 4) 事業の内容 建築工事業、土木工事業、とび・土工工事業、解体工事業
- 5) 許可番号 佐賀県知事許可 般-7 第9421号
- 6) 事業の規模 * 資本金 4千万円
* 従業員数 8人(2021年12月現在)
* 売上高 135百万円
* 延床面積 196㎡
* 法人設立 平成11年7月30日
- 7) 事業年度 2025年1月～12月

2. 認証・登録の対象範囲

下記の全組織及び全活動

- 1) 対象事業所 本社
2) 事業活動 上記の事業内容



環境経営方針

服巻建設 株式会社 は、天山水景の麓に位置し、小城清水の清流豊かな環境の中で建設工事を通じて、この環境の保全と汚染の予防に努めることを全社員が自覚し『環境にやさしい社会づくり』に取り組みます。

1. 次の重点事項に取り組みます。

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
- (2) 建設にともなう産業廃棄物及び事業系一般廃棄物の排出量削減
- (3) 水使用量の削減
- (4) 資材、事務用品等のグリーン購入推進
- (5) 本業における環境貢献の推進
- (6) 環境経営システムの継続的改善を実施します。
- (7) Scope(スコープ)1・2 排出算定「脱炭素経営」に取り組みます。

2. 関係する環境関連法規等を遵守します。

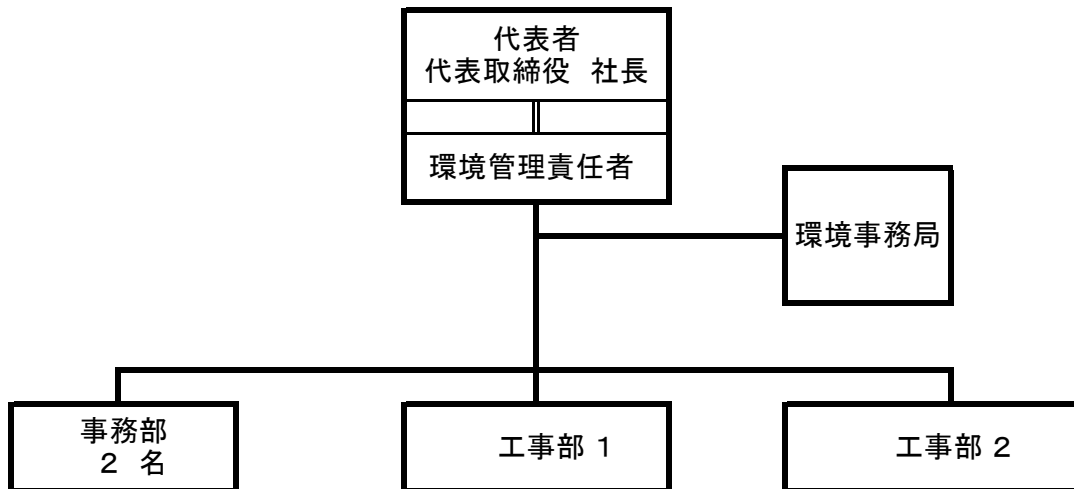


改定日 令和 7年 7月 1日

服巻建設 株式会社

代表取締役 松尾 裕之

4. 実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代表者 環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境方針を作成・見直し、従業員に周知する 環境管理責任者、事務局員を任命する 環境への取組を実施するための資源(人・もの・金)を準備する 全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 全体会議にて開催し、環境目標及び環境活動計画の実施状況を審議する。 環境管理責任者を補佐し、環境取組文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針、環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する 環境目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する 自部門に関連する法規制等を順守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する 脱炭素経営の取組の周知

5. 環境経営目標

(2024年度～2026年度)

環境目標	単位	基準年 2023年度	年度		
			2024年度 (1%削減)	2025年度 (2%削減)	2026年度 (2%削減)
		2023年 1月～12月	2024年 1月～12月	2025年 1月～12月	2026年 1月～12月
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	10,746	10,638	10,531	10,531
(1) 電気使用量削減	全社計	14,962	14,813	14,662	14,662
事務所 電灯	kWh	4,028	3,988	3,947	3,947
事務所 動力	kWh	9,286	9,193	9,100	9,100
現場	kWh	1,648	1,632	1,615	1,615
(2) ガソリン使用量削減	全社計	2,210	1,702	1,685	1,685
事務所	ℓ	716	709	702	702
現場	ℓ	1,003	993	983	983
(3) 軽油使用量削減					
現場	ℓ	363	360	356	356
2. 廃棄物排出量の削減					
一般廃棄物排出量の削減	kg	284	281	278	278
産業廃棄物リサイクル率の向上	%	100	100	100	100
3. 水使用量の削減	全社計	83	82	80	80
事務所	m ³	67	66	65	65
現場	m ³	16	16	15	15
4. グリーン購入の推進	-	購入を推進	購入を推進	購入を推進	購入を推進
5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案	-	施工時に提案	施工時に提案	施工時に提案	施工時に提案

1. 購入電力の二酸化炭素後排出係数は、0.462kg-CO₂/kWh(2022年度九州電力調整後)を使用しています。

2. 目標年度の()は基準年に対する削減率を示す。

※ 2025年度の目標値は前年度(2024年1月～12月)の実績にて計上している。

今後の目標値は2024年度の実績をもとにして目標を定める。

6. 環境経営計画 活動期間(2025年度)(2025年1月～12月迄)

責任者: 環境管理責任者

取組目標	サイト区分	活動項目	担当	スケジュール
1. 二酸化炭素排出量の削減				
(1) 電気使用量削減	全社	・使用していないパソコンの電源を切る	事務所	年間を通して
		・昼休み時間の消灯	(事務局)	〃
		・照明器具、空調機フィルター清掃	現場	〃
		・夜間、休日はパソコンの主電源を切る	(工事担当)	〃
(2) ガソリン使用量削減	全社	・急発進、急加速、急減速の禁止	事務所	〃
		・不要な荷物は積まない	(事務局)	〃
		・空気圧の適正確認	現場	〃
			(工事担当)	〃
(3) 軽油使用量削減	現場	・急発進、急加速、急減速の禁止	現場	〃
		・不要な荷物は積まない		〃
		・定期点検の実施	(工事担当)	〃
				〃
2. 廃棄物排出量の削減				
一般廃棄物排出量の削減	事務所	・分別によるリサイクルの推進(用紙類はシュレッダー処理)	(事務局)	年間を通して
		・コピー用紙裏紙の利用		〃
産業廃棄物リサイクル率の向上	現場	・転用可能な資材の活用の推進	(工事担当)	〃
		・中間処理施設の利用徹底		〃
3. 水使用量の削減				
	事務所 現場	・節水ラベルの貼付	事務所	年間を通して
		・節水の呼びかけ	(事務局)	〃
		・5割開栓を心掛ける	現場	
			(工事担当)	〃
4. グリーン購入の推進	全社	事務所・現場共 グリーン購入を推進		
5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案	現場	省資源型設計・施工を行う。又、提案していく		

7. 環境経営目標の実績

活動期間(2025年1月～12月)

環境目標	単位	基準年 (2023年度)	2025年1月～12月				
			目標	実績	達成率	評価	結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	10,746	10,531	10,746	98%	△	8月以降から現場の電気使用量が増えた為排出量の増加となった。 使用量は現場状況により増減がかかわっている。
(1) 電気使用量削減	全社	14,962	14,662	13,728	107%	○	
事務所 電灯	kWh	4,028	3,947	3,786	104%	○	
事務所 動力	kWh	9,286	9,100	8,224	111%	○	
現場	kWh	1,648	1,615	1,718	94%	△	
(2) ガソリン使用量削減	全社	1,719	1,685	1,715	98%	△	
事務所	ℓ	716	702	504	139%	◎	
現場	ℓ	1,003	983	1,211	81%	△	
(3) 軽油使用量削減							
現場	ℓ	363	356	366	97%	△	
2. 廃棄物排出量の削減	kg						今年度は一般廃棄物排出量が少なかった。産業廃棄物も現場が少なかった為。
一般廃棄物排出量の削減	kg	284	278	177	157%	◎	
産業廃棄物リサイクル率の向上	%	100	100	87	87%	△	
3. 水使用量の削減	全社	83	80	84	95%	△	事務所水使用量は個人のコンテナ据付使用頻度が少なかった。
事務所	m ³	67	65	57	114%	◎	
現場	m ³	16	15	27	56%	×	
4. グリーン購入の推進	%	グリーン購入を推進				○	
5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案	件	省資源型設計・施工を提案				○	

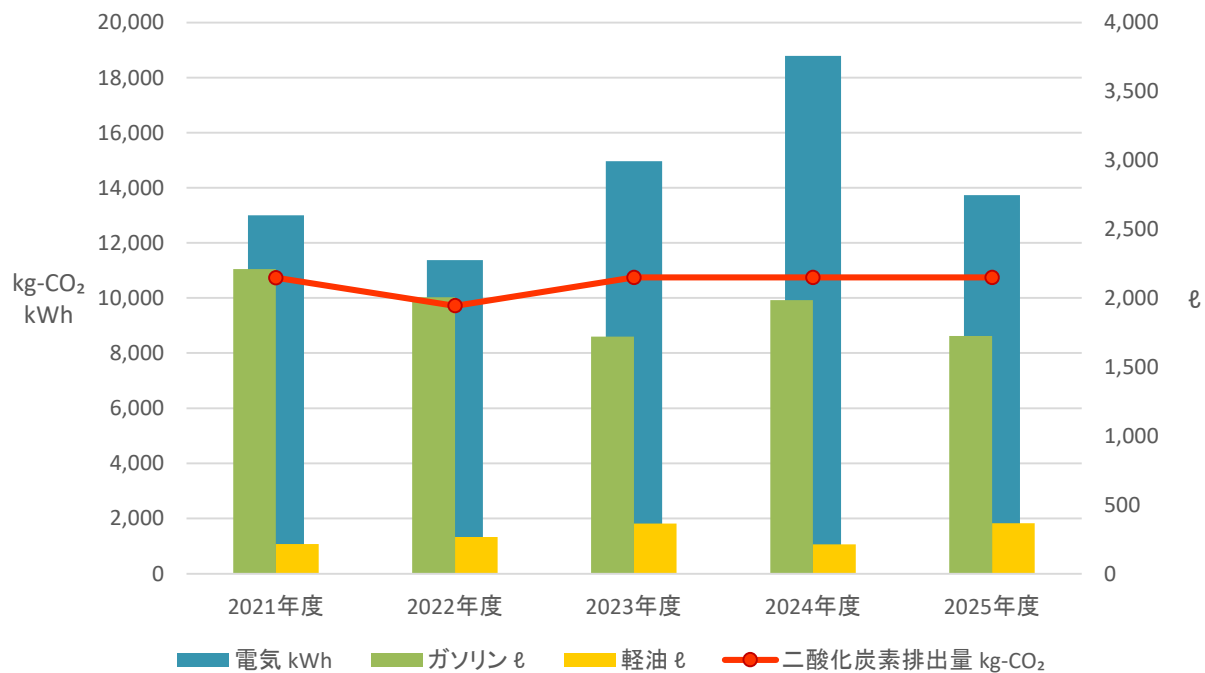
※ 目標達成率は、削減目標÷取組実績＝達成率としている。

※ 評価の基準は、目標率100%以上の場合は○[達成]、100%未満～80%以上の場合は△[ほぼ達成]、80%未満以下の場合は×[未達成]としている。

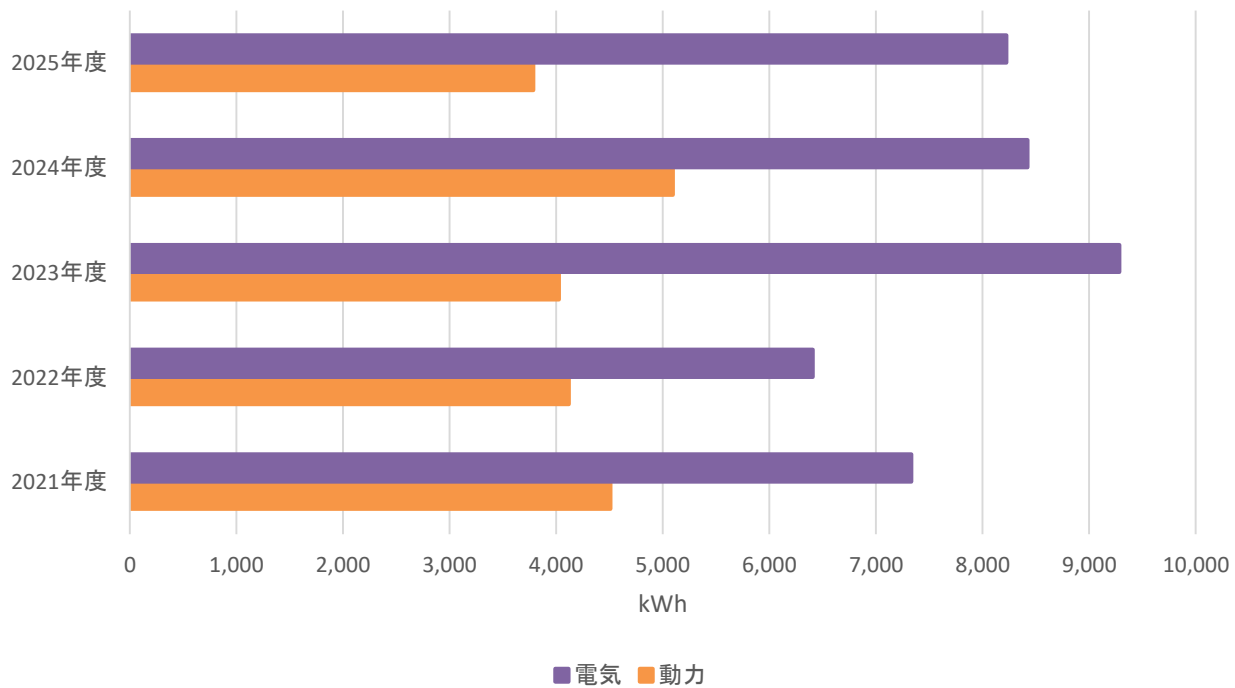
※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数は九州電力 2023年度の二酸化炭素調整後排出係数（0402kg-CO₂/kWh）を使用しています。



二酸化炭素排出量と発生源(実績)の推移



事務所 電気・動力使用量の推移



8. 環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の計画内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の計画
		1月～12月		
電気使用量削減	こまめな消灯	○	<ul style="list-style-type: none"> 概ね実施出来ている。 2024年度の4月から、空き敷地利用にて個人様コンテナハウス設置により動力の使用量が増加しているが、当社では二酸化炭素の排出量の削減を意識して行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> こまめな消灯 エアコンの適温調整 エアコンの定期清掃 今後もガソリン、軽油使用量削減を意識していく。 夏季における空調の節電
	エアコンの適温調整	×		
	照明器具、空調機の定期清掃	○		
	夜間、休日はパソコンの主電源を切る	○		
ガソリン使用量削減	急発進、急加速等の禁止	○		
	不要な荷物は積まない	○		
	空気圧の適正確認	○		
軽油使用量削減	急発進、急加速等の禁止	○		
	不要な荷物は積まない	○		
	定期点検の実施	○		

2. 廃棄物排出量削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の計画
		1月～12月		
一般廃棄物	分別によるリサイクルの推進	○	<ul style="list-style-type: none"> コピー紙のリサイクルで排出量も減った。 分別によるリサイクルの推進。 ゴミの持ち帰り等で排出量の削減を計った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も社内ランを活用し、無駄な用紙の使用しない。 現場の産廃等は再資源化する。
	コピー用紙の裏紙利用	○		
産業廃棄物	転用可能な資材の活用の推進	○		
	中間処理施設の利用徹底	○		

3. 水使用量削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の計画
		1月～12月		
こまめな節水	○	<ul style="list-style-type: none"> 節水に努めた。 電気使用量の評価と同様にコンテナハウス設置により、使用量は増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も事務所、現場ともに節水に努め、使用時は常に蛇口の5割開栓を心掛ける。 	
節水ラベルの貼付け	○			

4. グリーン購入の推進(事務用品)

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の計画
		1月～12月		
グリーン購入の推進		○	<ul style="list-style-type: none"> アスクルのエコ商品等の利用をしている 	

5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の計画
		1月～12月		
省資源・省エネ型設計・施工の提案		○	<ul style="list-style-type: none"> 工事現場の提案は出来ている。 	

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動、関する環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	マニフェストの交付・回収・保管の適正処理	適正
建設リサイクル法	一定規模以上の建築4品目の分別解体と再資源化	適合
建設業法	建設業許可	適正
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守	適正
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守	適正
浄化槽法	浄化槽の管理、保守点検、法定点検の実施	適正
フロン排出抑制法	簡易定期点検の実施	適正

令和5年3月に上記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの苦情もありませんでした。



10. 「Scope(スコープ)1・2」算定「脱炭素経営」への取組

スコープ1: 自社が直接排出するGHG (ガソリン・軽油の使用量による算定)

スコープ1は、自社が直接排出するGHGである。製品を製造する際などに直接排出するGHGを指す。製品を加工する際に燃料を燃やして、CO2を排出する。

スコープ2: 自社が間接排出するGHG (電気使用量による算定)

スコープ2は、自社が間接排出するGHGである。他社から供給された電気などを利用することで、間接的に排出されるGHGを指す。自社の事務所で電気を使用しており、その供給源である発電所の排出するCO2。

「Scope(スコープ)1・2」 自社排出算定結果 「作業範囲」

(2025年1月～12月)

スコープ1: 自社が直接排出するGHG (ガソリン・軽油の使用量による算定)

*ガソリン使用量 $1,715\text{l} \times 2.32\text{t-co}_2/\text{kl} = 3,978.8\text{t-co}_2$ 排出量: 3,978.8t-co2
 *軽油 使用量 $366\text{l} \times 2.62\text{t-co}_2/\text{kl} = 958.92\text{t-co}_2$ 排出量: 958.92t-co2

スコープ2: 自社が間接排出するGHG (電気使用量による算定)

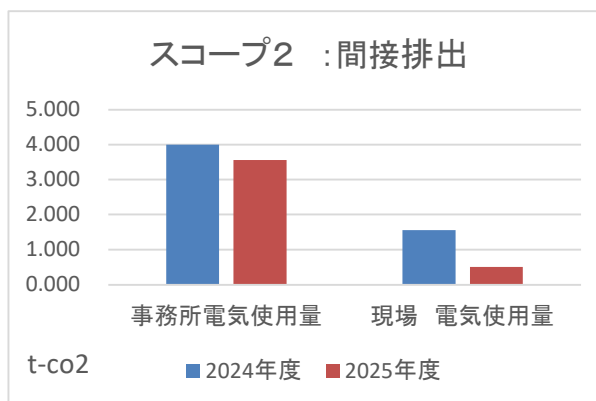
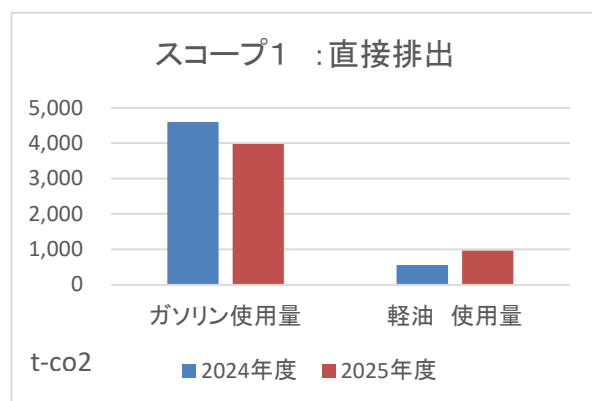
*事務所電気使用量 $12,010\text{kwh} \times 0.000296\text{t-co}_2 = 3.55496\text{t-co}_2$ 排出量: =3.55496t-co2
 *現場電気使用量 $1,718\text{kwh} \times 0.000296\text{t-co}_2 = 0.508528\text{t-co}_2$ 排出量: =0.508528t-co2

※上記計算はゼロ炭素ポート 計算ツール(九州電力)により算定

自社排出算定 実績表 (昨年との推移)

	単位	2024年度	2025年度	推移差	増減
スコープ1 :直接排出	t-co2				
ガソリン使用量	t-co2	4,602.88	3,978.8	-624.08	減 ○
軽油 使用量	t-co2	552.82	958.92	406.10	増 ×
スコープ2 :間接排出	t-co2				
事務所電気使用量	t-co2	4.00251	3.55496	-0.44755	減 ○
現場 電気使用量	t-co2	1.55933	0.50853	-1.05080	減 ○

【排出実績の推移 グラフ】



11. 代表者による全体評価と見直し及びスコープ算出の結果

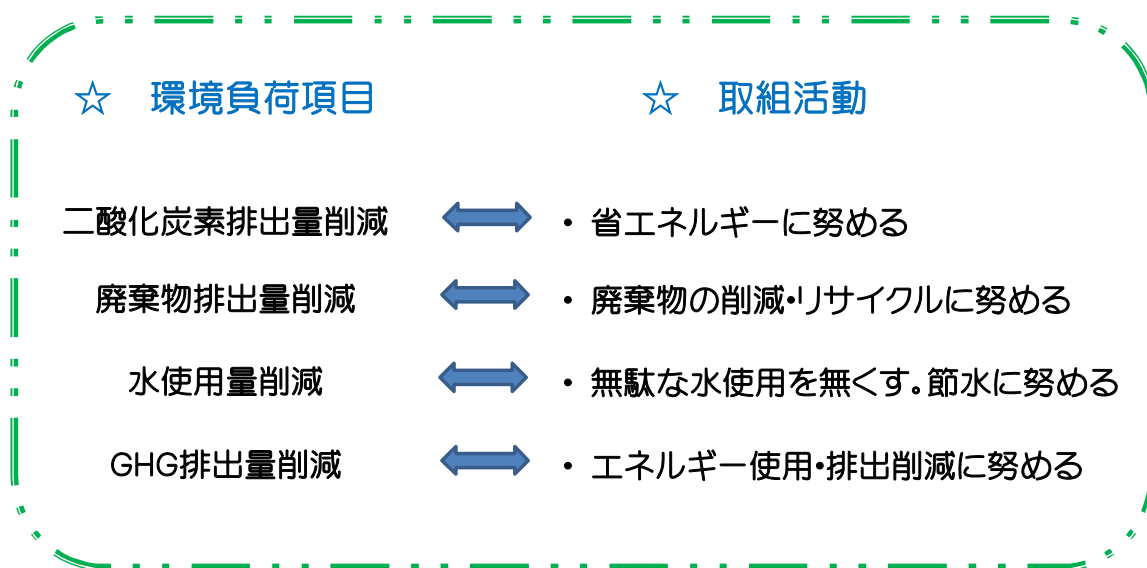
1) 評価

- ① 社内では環境に配慮した分別がきちんとなされている。
- ② 現場では廃棄物等管理も徹底され、倉庫内の整理・整頓によるリサイクル資材の管理ができています。
- ③ 自社が直接排出するGHGの算出実績を提示して、CO2排出を出来るだけ少なく留める様社員で思考していく。

2) 見直し(変更の必要性と指示)

- ・ 必要なものと無駄なものの判断をしっかりと見極めること。
- ・ 昨今、全国地域で脱炭素化(カーボンニュートラル)が推進されているが、当社内でも太陽光発電により(カーボンニュートラルマイナス)をあげ、環境の保全と汚染防止に環境経営方針通りに貢献していく。
 - * 民間住宅施工では屋根置の自家消費型 太陽光発電設置等の推奨。
 - * 法令に従い省エネ断熱住宅施工を行う。

3) 環境方針、環境目標、環境活動計画及び実施体制は変更せずに、このまま継続する。



※ 今期も事業売上高が低い決算となり、より一層の削減を従業員一同にて周知徹底を行った。

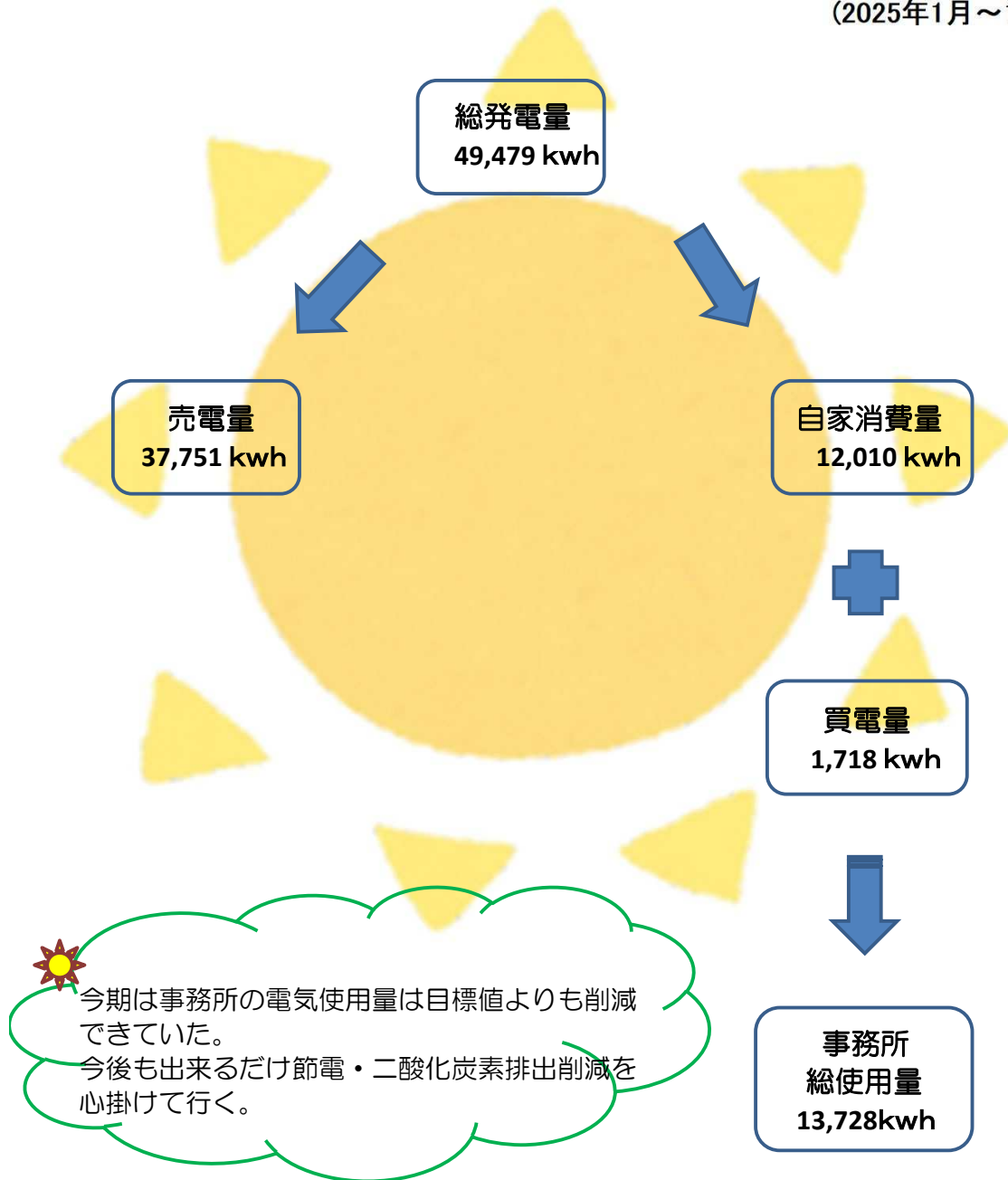
 **服巻建設(株)**

代表取締役 松尾 裕之



①弊社の太陽光発電

(2025年1月～12月)



※太陽光発電システムの活用

- ① 地球温暖化の原因は、二酸化炭素が要因。
- ② 持続可能な電気を創って使うことで地球を守ることや自宅の電気代削減、災害対策に繋がっていくと思う。
- ③ 太陽光発電を設置して再生可能エネルギーを作り、二酸化炭素の排出量削減の効果に貢献していく事も大切。

* 売電によるCO2削減

2025年度は、太陽光発電での売電で $37,751\text{kwh} \times 0.389 = 14,685\text{kg} \div 12.7\text{t}$

(0.402kg-CO2/kwhは2023年度九州電力調整後)を使用のマイナスカーボン排出量となり、環境保全に寄与している。